

スポーツ審議会 スポーツ基本計画部会 団体ヒアリング資料

令和3年5月24日(月)

東京都オリンピック・パラリンピック準備局

スポーツ振興に向けた取組状況と成果

▶ 2018年3月に策定した「東京都スポーツ推進総合計画」に基づき、スポーツ振興施策を推進

■ 東京都スポーツ推進総合計画（計画期間：2018年度～2024年度）

基本理念

スポーツの力で東京の未来を創る

～ 誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しみ、スポーツの力で人と都市が活性化する「スポーツ都市東京」を実現 ～

政策目標・達成指標・現状

計画全体の目標値であるスポーツ実施率※70%の実現を目指し、3つの政策目標と9つの達成指標を設定

※週1回以上スポーツを実施する都民（18歳以上）の割合

スポーツ実施率			
56.3%（2016年）→ 57.2%（2018年）→ 60.4%（2020年）			
政策目標1	スポーツを通じた健康長寿の達成		
都民の誰もが、気軽にスポーツに親しむことによって、心身の健康が維持・増進し、いきいきと生活			
■達成指標	現状	2020年目標	2024年度目標
スポーツを実施しなかった都民の割合	15.0% ▶ 9.7% (2016年) (2020年)	7.5%	7.5%
スポーツが嫌いな中学2年生の割合	男11.8% ▶ 11.3% 女21.8% ▶ 20.0% (2016年) (2019年)	—	男 5% 女10%
スポーツを支える活動をした都民の割合	13.1% ▶ 14.6% (2016年) (2018年)	20%	20%
■主な取組	TOKYOスポーツ施設サポーターズ スポーツ施設を所有している大学や企業等と連携し、都民が利用できるスポーツ施設として提供		
政策目標2	スポーツを通じた共生社会の実現		
障害の有無や年齢、性別、国籍等を問わず、全ての人が分け隔てなくスポーツを楽しみ、互いを理解・尊重しながら共生			
■達成指標	現状	2020年目標	2024年度目標
障害のある人のスポーツ実施率	19.2% ▶ 31.9% (2016年) (2020年) ※全国数値	—	2021年までに 40%
20～30代女性のスポーツ実施率	42.0% ▶ 59.2% (2016年) (2020年)	50%	55%
60歳以上のスポーツ実施率	65.5% ▶ 63.3% (2016年) (2020年)	75%	75%
■主な取組	都立特別支援学校活用促進事業 都立特別支援学校の体育施設等を活用し、障害の有無に関わらず参加できるスポーツやレクリエーションの体験教室を開催		
政策目標3	スポーツを通じた地域・経済の活性化		
都民がスポーツを日常的に楽しむとともに、企業・地域団体等もスポーツの楽しさを実感できるサービス等を提供し、地域や経済が活性化			
■達成指標	現状	2020年目標	2024年度目標
直接スポーツ観戦をした都民の割合	39.3% ▶ 41.1% (2016年) (2018年)	50%	50%
東京2020大会に出場する都が発掘・育成・強化したアスリート	—	—	オリンピック 100人 パラリンピック 25人
都内のスポーツ市場規模（スポーツGDP）	0.57兆円 (2012年)	1.04兆円	1.46兆円
■主な取組	ラグビーワールドカップ2019™日本大会 ・東京スタジアム 8試合 380,502人 ・ファンゾーン多摩会場 131,900人 区部会場 178,600人		

スポーツ振興に向けた課題と今後の方向性

- ▶ 新たな都政の羅針盤として2021年3月に策定された「未来の東京」戦略に基づき、さらに取組を推進

■ 「未来の東京」戦略

< 目指す 2040年代 の東京の姿 >

【ビジョン19】 スポーツが日常に溶け込んでいる、スポーツフィールド・東京

目指す姿に向けた取組

< 2030年 に向けた戦略 >

【戦略16】 スポーツフィールド東京戦略

東京2020大会のレガシーを最大限生かし、スポーツを「する・みる・支える」ための様々な環境を整えるとともに、**パラスポーツをポピュラーなコンテンツに育てる**仕掛けを打つことで、誰もがスポーツを楽しみ、健康増進や人とのつながりなど、スポーツの力を享受できる「スポーツフィールド・東京」を創り上げていく。

【戦略19】 オリンピック・パラリンピックレガシー戦略

東京2020大会をオリンピック・パラリンピックの新たなモデルとして示していくとともに、**ハード・ソフト両面に渡る様々な対策を、都市のレガシーとして発展させ、都民の豊かな生活につなげていく。**

「スポーツフィールド・TOKYO」
プロジェクト

「スポーツベニュー・レガシー」
プロジェクト

「パラスポーツ・シティ」
プロジェクト

「スポーツ・ウェルネス・シティ」
プロジェクト

安全・安心

まちづくり

スポーツ・
健康

参加・協働

文化・観光

教育・多様性

環境・
持続可能性

経済・
テクノロジー

被災地
復興支援

2030年に向けた政策目標

①都民のスポーツ実施率を世界最高水準に

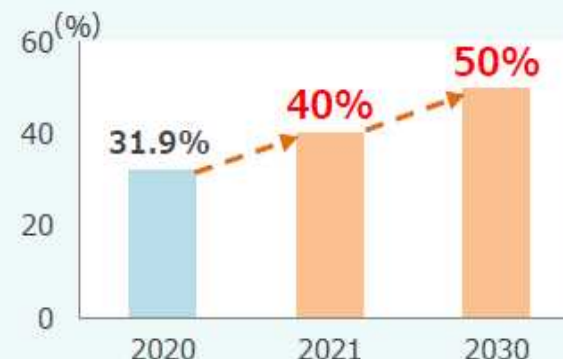
多面的なスポーツ振興施策の展開により、週1回以上スポーツをする都民の割合を**70%**に向上し、さらに**世界最高水準に**（2030年）



1. 「スポーツフィールド・T O K Y O」プロジェクト 4. 「スポーツ・ウェルネス・シティ」プロジェクト

②障害のある都民のスポーツ実施率を向上

パラスポーツの機会・場の拡大等などの継続した推進により、週1回以上スポーツをする障害のある都民の割合を**50%**に向上（2030年）



3. 「パラスポーツ・シティ」プロジェクト

③スポーツ推進認定企業1,000社

働き盛り世代の週1回以上スポーツをする割合を向上させるため、スポーツ推進認定企業数を**1,000社**に（2030年）



1. 「スポーツフィールド・T O K Y O」プロジェクト

④新規恒久施設を徹底的に有効活用

東京2020大会に向けて建設した新規恒久施設（6施設）を様々な用途で有効活用

国内外主要大会の開催数

200回／年（2030年）

来場者数

310万人／年（2030年）

2. 「スポーツベニュー・レガシー」プロジェクト

⑤パラスポーツに関心がある都民の割合を向上

都民のうち、パラスポーツに関心がある人の割合を**80%**に向上（2030年）



3. 「パラスポーツ・シティ」プロジェクト

【戦略16】 スポーツフィールド東京戦略

■主な取組

「スポーツフィールド・TOKYO」プロジェクト

日常生活の様々な場をスポーツができる場として整備するとともに、最先端技術等を活用してスポーツの新たな楽しみ方を生み出す等、都民の日常にスポーツが溶け込んだまちを創出

- スポーツ推進企業認定制度の推進
- デジタルの力を活用したスポーツの機会創出
- 国際大会の誘致・開催支援

「スポーツベニュー・レガシー」プロジェクト

東京2020大会に向けて都が新たに整備した競技施設をはじめ、スポーツ施設の新たな魅力を最大限発揮し、スポーツを中心に様々な目的で都民が集うことができる拠点として形成

- 大会後の戦略的な活用策を踏まえたスポーツ施設の運営
- 民間ノウハウ等を生かした施設運営（有明アリーナ）

「パラスポーツ・シティ」プロジェクト

夏季パラリンピックを2度開催した世界初の都市レガシーとして、パラスポーツをポピュラーなコンテンツとし、障害の有無を問わず「いつでも、どこでも、いつまでも」楽しめる取組を推進

- 都立特別支援学校体育施設の貸出・体験教室の実施
- パラスポーツを支える人材の裾野拡大と質の向上

「スポーツ・ウェルネス・シティ」プロジェクト

誰もがいきいきとスポーツに親しみ、ウェルネスを実現できるよう、最先端技術等を有する民間企業等との連携など、DXの推進によるスポーツを核とした新たな価値や魅力を創出

- 有明アーバンスポーツパーク（仮称）の整備・運営
- 有明親水海浜公園（仮称）の整備・開園

【戦略19】 オリンピック・パラリンピックレガシー戦略

■主な取組（スポーツ振興と関連性の強い項目を抜粋）

まちづくり 大会の感動を生んだ競技会場を、都民に愛されるスポーツやエンターテインメントのシンボルに

- 大規模な国際大会の開催など**世界に誇れるスポーツ拠点**に（東京体育館、国立代々木競技場、国立競技場）
- **アーバンスポーツ**や**最先端技術の導入**による新たな体験・観戦機会の創出（有明アーバンスポーツパーク、有明テニスの森、有明アリーナ）
- **冬季スポーツ**をはじめ**多様なスポーツ**が実施可能になり**スポーツの裾野が拡大**
（東京辰巳国際水泳場、アクアティクスセンター、大井ホッケー競技場、夢の島公園アーチェリー場）
- **多摩地域のスポーツ拠点**としてスポーツに親しめる環境を創出（武蔵野の森総合スポーツプラザ、東京スタジアム）
- **水上スポーツ・レジャー体験**の新たな機会を提供（海の森水上競技場、カヌー・スラロームセンター）

スポーツ・健康 スポーツを「する」・「みる」・「支える」を日常に定着、都民の健康増進・QOL向上を実現

- 【す る】都民参加型イベントの開催や身近なスポーツ環境の整備を推進
- 【み る】都立のアリーナ等を有するスポーツ施設において、大会等を映像配信できる環境を構築
- 【支える】様々なスポーツイベントにおいてボランティアの活躍の場の提供

スポーツ・健康 パラリンピックに向けた多面的な取組の継承・発展により、パラスポーツを人気コンテンツに

- パラスポーツの普及啓発を強力に展開し、パラリンピック・ムーブメントを創出
 - ◆TOKYO発のチームで盛り上げ
 - ◆体験プログラムを東京全域で展開
 - ◆パラスポーツの魅力を広く発信
- 障害の有無に関わらずパラスポーツを楽しむための取組を推進
 - ◆パラスポーツをできる場の確保
 - ◆パラスポーツを支える人材の育成
 - ◆パラスポーツの競技力向上

**被災地
復興支援**

大会を契機に被災地の復興の姿を世界に届け、被災地との絆を次代に引き継ぐ

- 被災地と東京を結ぶ縦断リレーを実施
- 被災地の子供たち等を都のスポーツ大会等に招待
- 大会に向けた気運醸成で被災地を活性化
- 被災地へトップアスリートを派遣

■スポーツ振興事業の推進

スポーツ環境の整備・充実

- 地域のスポーツ振興の拠点となるスポーツ施設の整備を促進

競技力向上の推進

- 選手の練習環境を整備
- パラリンピック強化選手等が必要とする支援を継続的に受けられるよう、一般スポーツと一体的に推進

企業に対するインセンティブ制度の構築

- 現役のトップアスリートを雇用した企業に対するインセンティブとなる制度を構築

■障害者スポーツの推進

日本代表選手の強化や競技団体の活動拠点、財政面を含めた基盤強化の強力な推進

- より広域で選手の発掘・育成に取り組めるよう、団体を支援
- 選手個人に対する支援を拡充するとともに、障害者スポーツ団体の組織力の強化、競技力向上のための体制整備を図り、障害者スポーツを支える基盤を強化

障害者スポーツの理解促進・普及啓発

- 障害者スポーツの理解促進に向けた積極的な情報発信及び普及啓発

スポーツ審議会 スポーツ基本計画部会
団体ヒアリング参考資料



「未来の東京」戦略

令和3(2021)年3月
東京都

～渋谷・後藤の精神を受け継ぎ、新たな地平を切り拓く～

スポーツが日常に溶け込んでいる、スポーツフィールド・東京

目指す2040年代の東京の姿

- 東京2020大会で新型コロナを乗り越え躍動するアスリートの姿が、都市のレガシーとなり、まち全体が誰もがスポーツを楽しめるスポーツフィールドに進化している
- 東京2020大会の感動を生んだ競技施設は、スポーツの聖地として毎年国際大会等が開催され、トップアスリートが東京に集結している
- パラスポーツが老若男女が楽しめるポピュラーなコンテンツとなり、まちの至るところで人々がパラスポーツを楽しんでいる
- 健康増進、地域コミュニティの活性化、人と人のつながりなど、スポーツの力により、都民生活の質が向上している



（人々に希望を与え、絆を強める「スポーツの力」）

- コロナ禍では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の1年延期をはじめ、様々な国際スポーツ大会、プロスポーツ、中高生の部活動の大会が中止・延期となるなど、スポーツ界に大きな影響を及ぼした。スポーツができない、観戦できない状況に置かれ、人々はスポーツを通じて得られる喜びや楽しさの尊さに改めて気付かされることとなった。
- こうした状況を経て開催される東京2020大会は、人類が一丸となって「見えざる敵」に打ち勝ち、スポーツを通じて絆を更に強め、世界中の人々に希望と自信、喜びを与える、未来への希望を灯す祭典として成功を収められるよう、感染症対策をはじめ万全の準備を進めていく。

（二度目のパラリンピック大会のレガシー）

- 東京は、世界で初めて二度目の夏季パラリンピック大会を開催する都市となる。多くの人々がパラスポーツの魅力を体感し、理解を深めることを通じて、パラスポーツを誰もが楽しめるポピュラーなコンテンツとして確立していく。
- また、障害者の一人ひとりが自らの状況に応じて、パラスポーツを体験し、楽しむことで、自分らしい人生を送ることができるようにするとともに、障害のあるなしに関わらず、老若男女がパラスポーツをユニバーサルなスポーツとして楽しむ環境を整えることで、共生社会を実現していく。



（スポーツの力を最大限に享受できるスポーツフィールドを実現）

- 東京2020大会を契機に、多くの都民がスポーツを「する」ことはもとより、競技会場等でスポーツを「みる」、スポーツボランティア等でスポーツを「支える」といった様々な形でスポーツに触れる機会が増え、健康増進、地域の活性化、人と人とのつながりなどの「スポーツの力」が都民にもたらされる好循環が生まれる。
- コロナ禍の経験を昇華させ、生の現場で味わえるリアルな体験価値と、最先端技術を駆使して体験できるバーチャルな価値とがハイブリッドされたスポーツの新たな楽しみ方を生み出すことで、より多くの人々が「スポーツの力」を享受することができる。
- 誰もが望む場所で、望むスポーツを気軽に行うことができる環境を整え、東京2020大会の競技施設等を有効に活用することで、スポーツやパラスポーツに至る所で「する・みる・支える」ことができるスポーツフィールドを東京全体に創出していく。

戦略16 スポーツフィールド東京戦略

スポーツが日常に溶け込んでいる、
スポーツフィールド・東京



東京2020大会のレガシーを最大限生かし、スポーツを「する・みる・支える」ための様々な環境を整えるとともに、パラスポーツをポピュラーなコンテンツに育てる仕掛けを打つことで、誰もがスポーツを楽しみ、健康増進や人とのつながりなど、スポーツの力を享受できる「スポーツフィールド・東京」を創り上げていく。

1 東京2020大会のスポーツレガシーを最大限に活用する

- ・ 公共・民間施設の開放などのスポーツ環境の整備、東京2020大会の競技施設での国際大会や国内の主要な競技大会の開催、ボランティア・ネットワークの構築など、スポーツ環境の充実を図り、東京全体をスポーツが楽しめるフィールドとして育てていく。

2 パラスポーツのファンを増やし、定着させる仕掛けを打つ

- ・ 2度目のパラリンピックを開催した都市として、多くの人がパラスポーツに関われる仕組みを構築し、パラスポーツをポピュラーなコンテンツに育て上げるとともに、障害の有無を問わず、誰もが楽しめるユニバーサルなスポーツとしての普及を図る。

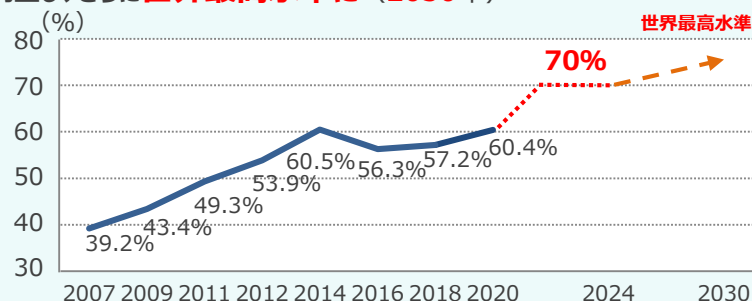
3 スポーツ×DXでQOL・QOSを高め、健康づくりにつなげる

- ・ 誰もがいきいきとスポーツを楽しみながら健康増進を図り、ウェルネスを実現できるよう、AI等の最先端技術を有する民間企業等と連携し、東京の各地域にスポーツを核とした新たな価値や魅力にあふれるエリアを創出する。

2030年に向けた政策目標

①都民のスポーツ実施率を世界最高水準に

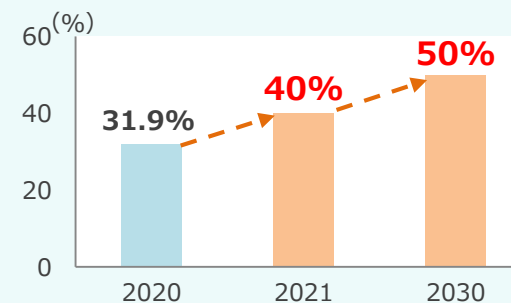
多面的なスポーツ振興施策の展開により、**週1回以上スポーツをする都民の割合を70%に向上し、さらに世界最高水準に（2030年）**



1. 「スポーツフィールド・T O K Y O」プロジェクト 4. 「スポーツ・ウェルネス・シティ」プロジェクト

②障害のある都民のスポーツ実施率を向上

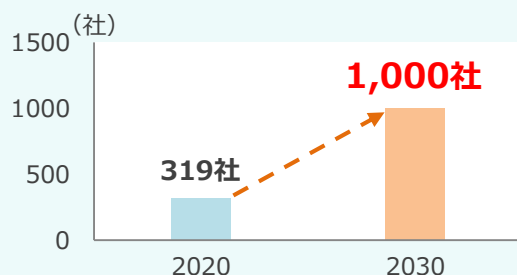
パラスポーツの機会・場の拡大等などの継続した推進により、**週1回以上スポーツをする障害のある都民の割合を50%に向上（2030年）**



3. 「パラスポーツ・シティ」プロジェクト

③スポーツ推進認定企業1,000社

働き盛り世代の週1回以上スポーツをする割合を向上させるため、**スポーツ推進認定企業数を1,000社に（2030年）**



1. 「スポーツフィールド・T O K Y O」プロジェクト

④新規恒久施設を徹底的に有効活用

東京2020大会に向けて建設した新規恒久施設（6施設）を様々な用途で有効活用

国内外主要大会の開催数

200回／年（2030年）

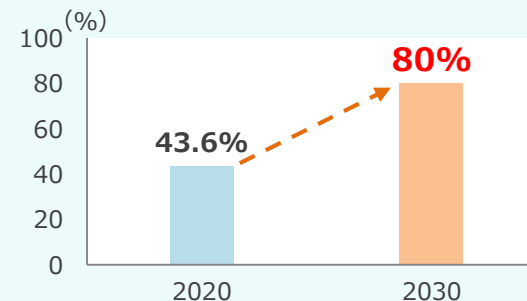
来場者数

310万人／年（2030年）

2. 「スポーツベニュー・レガシー」プロジェクト

⑤パラスポーツに関心がある都民の割合を向上

都民のうち、**パラスポーツに関心がある人の割合を80%に向上（2030年）**



3. 「パラスポーツ・シティ」プロジェクト

1. 「スポーツフィールド・T O K Y O」プロジェクト



○ 日常生活の様々な場をスポーツができる場として整備するとともに、最先端技術等を活用してスポーツの新たな楽しみ方を生み出す等、都民の日常にスポーツが溶け込んだまちを創出

スポーツを「する」：スポーツの場を東京の至る所に広げる

◆ 都民に身近な地域のスポーツ振興を支援

- ・スポーツ教室やスポーツイベントなど、区市町村におけるスポーツの裾野拡大や普及啓発を支援
- ・地域スポーツクラブの設立・育成等を総合的に支援し、全区市町村に設置
- ・都立特別支援学校の体育施設をバラスポーツの場として活用



◆ 参加型スポーツイベントによりスポーツを身近に

- ・TOKYOウオーク、スポーツの日記念行事、東京マラソン、チャレスポ！TOKYOなど、気軽に参加できるスポーツイベントを開催
- ・ラグビーワールドカップ2019™のレガシーイベントを実施



◆ 都のスポーツ施設等の新たな魅力を最大限発揮

- ・東京2020大会後のスポーツ施設を戦略的に活用、路上競技コース等の大会のレガシーを都民利用や大会開催などに有効活用
- ・大会仮施設を活用して、有明アーバンスポーツパーク(仮称)を整備
- ・東京辰巳国際水泳場をアイスリンクへ転換
- ・東京スタジアム内の室内施設をバラスポーツ練習拠点として活用検討



◆ スポーツを核として、大学や民間企業等と連携

- ・スポーツ推進企業の交流用Webサイト構築、スポーツインストラクター等の派遣など、スポーツ推進企業を奨励



- ・スタートアップ等との連携により健康増進に向けた取組を実施
- ・オンライン・AR等を活用した運動の促進

- ・都内の大学・企業等が所有するスポーツ施設を利用できるよう協定を締結、協力先を順次拡大

- ・都民・アスリート・民間施設を含めた都内のスポーツ施設をつなぎ、スポーツに関する相談対応や情報をワンストップで提供

◆ アスリートの活躍を通じたスポーツ気運の醸成

- ・東京育ちのアスリートの発掘・育成・強化を支援
- ・女性の身体的特徴等に配慮したアスリート育成を支援するとともに、競技団体におけるスポーツ・インテグリティを推進

スポーツを「みる」：新しい楽しみ方を創出する

- ・最先端スマートアリーナである有明アリーナで、最高の「みる」体験を提供
- ・国際大会を誘致段階から支援するなど、ハイレベルな競技を観戦できる機会を創出
- ・都立のアリーナを有するスポーツ施設において、大会等を映像配信できる環境を構築



- 東京の資源を最大限に活用
- DXを積極的に推進

まちの至る所でスポーツを「する・みる・支える」ことができる「スポーツフィールド・東京」を実現

みる

支える

スポーツを「支える」：支援の輪を広げる

- ・「ボランティアレガシーネットワーク(仮称)」を通じて、プッシュ型で情報発信
- ・障害者スポーツボランティアの募集や参加申込をオンライン化し、コンサルティングや学びの場の提供等により、きめ細かにサポート



3か年のアクションプラン(主要)

具体的な取組	2020年度末 (見込み)	年次計画		
		2021年度	2022年度	2023年度
スポーツ推進企業認定制度の推進	認定数319社	認定数415社	認定数480社	認定数545社
デジタルの力を活用したスポーツの機会創出	ピッチコンテストの実施	ピッチコンテストを踏まえ、提案のあったコンテンツを活用	コンテンツの拡充	コンテンツの拡充
国際大会の誘致・開催支援	誘致支援開始	誘致・開催支援	誘致・開催支援	誘致・開催支援

2030年への展開

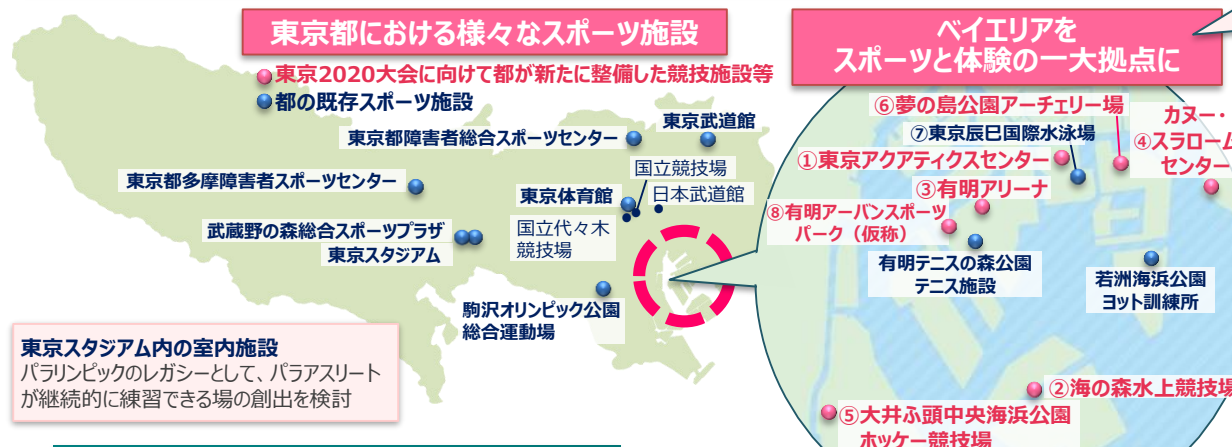
- 企業連携や多様な機会の提供により、働き盛り世代のスポーツ活動を促進【2030年】
- スタートアップ等の斬新なアイデアや最先端技術を活用し、新たなスポーツの機会を創出【2030年】
- 国際大会を継続的に誘致することで、スポーツ気運を維持・向上させるとともに、最高峰のスポーツ観戦体験を創出【2030年】

2. 「スポーツベニュー・レガシー」プロジェクト

- 東京2020大会に向けて都が新たに整備した競技施設をはじめ、スポーツ施設の新たな魅力を最大限発揮し、スポーツを中心に様々な目的で都民が集うことができる拠点として形成

スポーツ施設が東京の新たな魅力へ

- ・東京2020大会後のスポーツ施設の戦略的な活用策を検討し、都民の貴重な財産として未来へ継承
- ・水上、アーバン、冬季競技など多様なスポーツ機会の創出
- ・5G等の最先端技術の導入による新しい観戦、体験機会を提供
- ・国内外の主要な大会を積極的に誘致・開催し、アスリートの活躍の場及びハイレベルな競技を観戦できる機会を創出
- ・民間アイデアを活用し、会議やイベント等の開催の場など、ユニークベニューとしても活用を促進、スポーツ・文化の新たな拠点に
- ・バリアフリー環境が整備された施設やアクセスで、誰もが利用しやすい施設に
- ・予約システム・キャッシュレス決済の対象拡大による都民サービスの向上
- ・ネーミングライツ導入等による収益向上



東京スタジアム内の室内施設
パラリンピックのレガシーとして、パラアスリートが継続的に練習できる場の創出を検討

3か年のアクションプラン（主要）

具体的な取組	2020年度末 （見込み）	年次計画		
		2021年度	2022年度	2023年度
大会後の戦略的な活用策を踏まえたスポーツ施設の運営	大会延期を受けた施設利用の実施	活用に向けた情報収集・調査・分析等	次期指定管理者の選定	次期指定管理運営開始
民間ノウハウ等を生かした施設運営（有明アリーナ）	大会延期を受けた施設利用の実施	東京2020大会開催、大会後撤去・後施工工事 大会後開業準備、コンセッション方式による管理・運営		

都が新たに整備した競技施設等の魅力

① 東京アクアティクスセンター



- ◆ 日本水泳の中心となる世界最高水準の水泳場
- ・ 国内外の主要な国際大会を開催
- ・ 水泳の裾野拡大と世界を目指すアスリートを育成

② 海の森水上競技場



- ◆ アジアの水上競技の拠点
- ・ 水上スポーツ体験の機会提供等による水上競技の裾野拡大
- ・ ユニークベニューとしてイベント会場としても活用

③ 有明アリーナ



- ◆ 東京の新たなスポーツ・文化の拠点
- ・ コンセッション方式による管理運営
- ・ 5GやARなどの最先端技術を活用したイベント等も開催

④ カヌー・スラロームセンター



- ◆ 国内初の人エスラロームコースを活用した様々な水上スポーツ・レジャーを楽しめる施設
- ・ 安定した競技環境の下でアスリートを強化・育成
- ・ 様々な水上スポーツや水上レジャーの機会を提供

⑤ 大井ふ頭中央海浜公園 ホッケー競技場



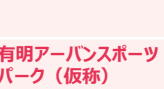
- ◆ ホッケーをはじめ、様々なスポーツで利用できる多目的競技場
- ・ 大井ふ頭中央海浜公園内の他施設と連携し、総合的なスポーツ・レクリエーションの拠点を形成

⑥ 夢の島公園アーチェリー場



- ◆ アーチェリーを中心として、多様な用途に活用
- ・ 芝生広場として多様な活用を図り、夢の島公園と一体となり都民に憩いの場を提供

⑦ 東京辰巳国際水泳場



- ・ 都立初の通年のアイスリンクとして整備し、夏のレガシーから冬季スポーツでの活用へ転換

⑧ 有明アーバンスポーツパーク（仮称）

- ・ 東京2020大会で使用した仮設スポーツ施設等を活用したアーバンスポーツゾーンの形成

2030年への展開

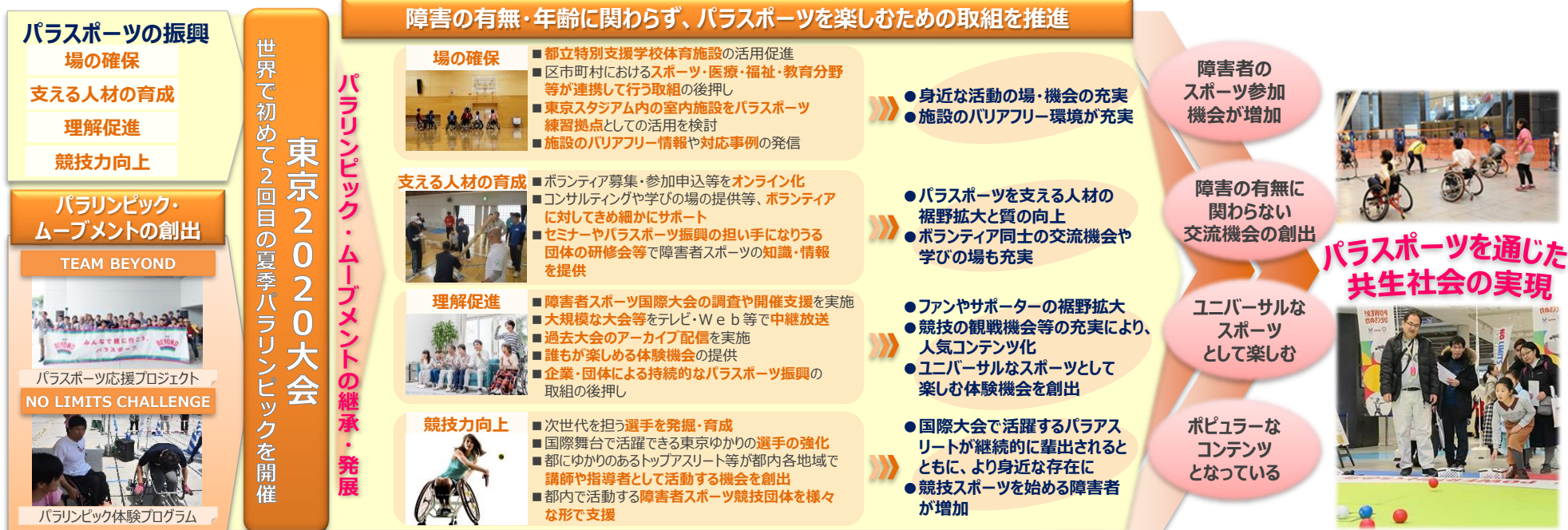
- 全都立スポーツ施設において、予約システムやキャッシュレス決済の対象拡大等をはじめとしたデジタル化により、QOSを向上【2030年】
- スポーツ施設を中心として、周辺施設・公園等と連携したイベント等を実施し、地域のにぎわいを創出【2030年】

5GやWiFi、キャッシュレス決済導入等によるQOSの向上

3. 「パラスポーツ・シティ」プロジェクト



○夏季パラリンピックを2度開催した世界初の都市のレガシーとして、パラスポーツをポピュラーなコンテンツとし、障害の有無を問わず「いつでも、どこでも、いつまでも」楽しめる取組を推進



3か年のアクションプラン（主要）

具体的な取組	2020年度末 (見込み)	年次計画		
		2021年度	2022年度	2023年度
都立特別支援学校体育施設の貸出・体験教室の実施	モデル事業実施 (2016～2020)	本格実施 体験教室の取組強化	体験教室の取組強化	体験教室の取組強化
パラスポーツを支える人材の裾野拡大と質の向上	ボランティアシステム構築・稼働開始	コーディネーターの配置 学びの場の提供開始	ボランティアの定着や募集团体の活用能力向上	ボランティア同士の交流や定着・能力向上
パラスポーツ大会の中継 (TOKYOパラスポーツチャンネル)	専用Webサイト開設	テレビ・Web等で中継放送	コンテンツ充実	コンテンツ充実

2030年への展開

- 都立特別支援学校の活用拡大や区市町村における様々な分野が連携して行う取組の後押しにより、パラスポーツを身近に楽しめる環境を充実【2030年】
- 交流の場やオンライン等を活用したボランティアの学び合いを促進し、支援の輪を拡大【2030年】
- 大規模な障害者スポーツ大会が開催されるよう支援し、観戦機会を創出【2030年】
- 国際大会での活躍を目指すパラアスリートを支援する取組を展開【2030年】